

株式会社二印大島水産 様

震災復興を進める水産会社が 「NEXT」を選択 未来対応を見据えた柔軟な システムを実現

(株)二印大島水産は気仙沼の生鮮魚介卸・水産加工業を営んでおりましたが、東日本大震災で壊滅的被害を受けました。その経験から高台に最新鋭の設備を要する新工場を設立し「復活」ではなく「創造」を目指し稼働を開始しました。それに伴いこれまではオフィスコンピューター（略称オフコン）の販売管理システムを運用していましたが機器の老朽化に伴うサポート終了に直面したことで「オンプレミス型販売管理システムNEXT」を選択し未来対応を見据えたシステム構築に取り組んだプロジェクトです。



株式会社二印大島水産

住 所	宮城県気仙沼市百目木91-2
設 立	昭和54年1月
資 本 金	10,000千円
従 業 員 数	45名

従来のシステム運用と課題

旧型オフコンならではの限られた機能によりシステム運用に支障が発生

従来の販売管理システムの基盤はパソコン黎明期に導入したオフコンであり、インターネットにも接続しておらず、インターネットやメールによる受注は別なパソコンから必要情報を印刷し販売管理システムへ登録する必要がありました。また、すべての帳票出力は複写式伝票（現在は使用頻度が低い）発行と兼用のドットインパクトプリンタを使用しており、ページプリンタと比較すると印字スピードも遅く、それが日常運用に直結していました。さらに印刷プレビュー機能がないため、必要帳票はすべて印刷してファイリングするため、それらの保存スペースも確保する必要がありました。

加工場と事務所とのコミュニケーションにおいて製造指示や出荷指示を行う為のシステム出力帳票は情報量が足りずに内線電話にて補足する必要がある点と、それら帳票を人力で運搬するという非効率な運用が行われている点が大きな課題となっていました。

導入の経緯

最新鋭工場の稼働にあわせた運用の効率化を検討

最新鋭工場の建築計画の段階から、課題だった加工場と事務所とのコミュニケーションの効率化を議論していました。後継のオフコンへの移行も検討しましたが抜本的な運用の効率化を検討した場合既存のソフト資産は逆に足枷になるとの見解をもっていました。そこへ運用やデータベースレイアウトを熟知した既存のシステムベンダーである(株)SJCの「オンプレミス型販売管理システムNEXT」を紹介されました。



選定理由

カスタマイズにより既存機能を踏襲し運用効率化を実現

- ・既存機能である不定貫管理や市場への委託販売機能を柔軟なカスタマイズでカバーできる。
- ・加工場と事務所での非効率運用が新工場のネットワーク構築に伴い抜本的に解消できる。
- ・スムーズなシステム移行が可能である。
- ・帳票出力の印刷プレビュー・ファイル保存機能によりペーパーレス化が推進できる。
- ・既存システムに備わっていた煩わしい日次や請求更新等運用を廃止できる。

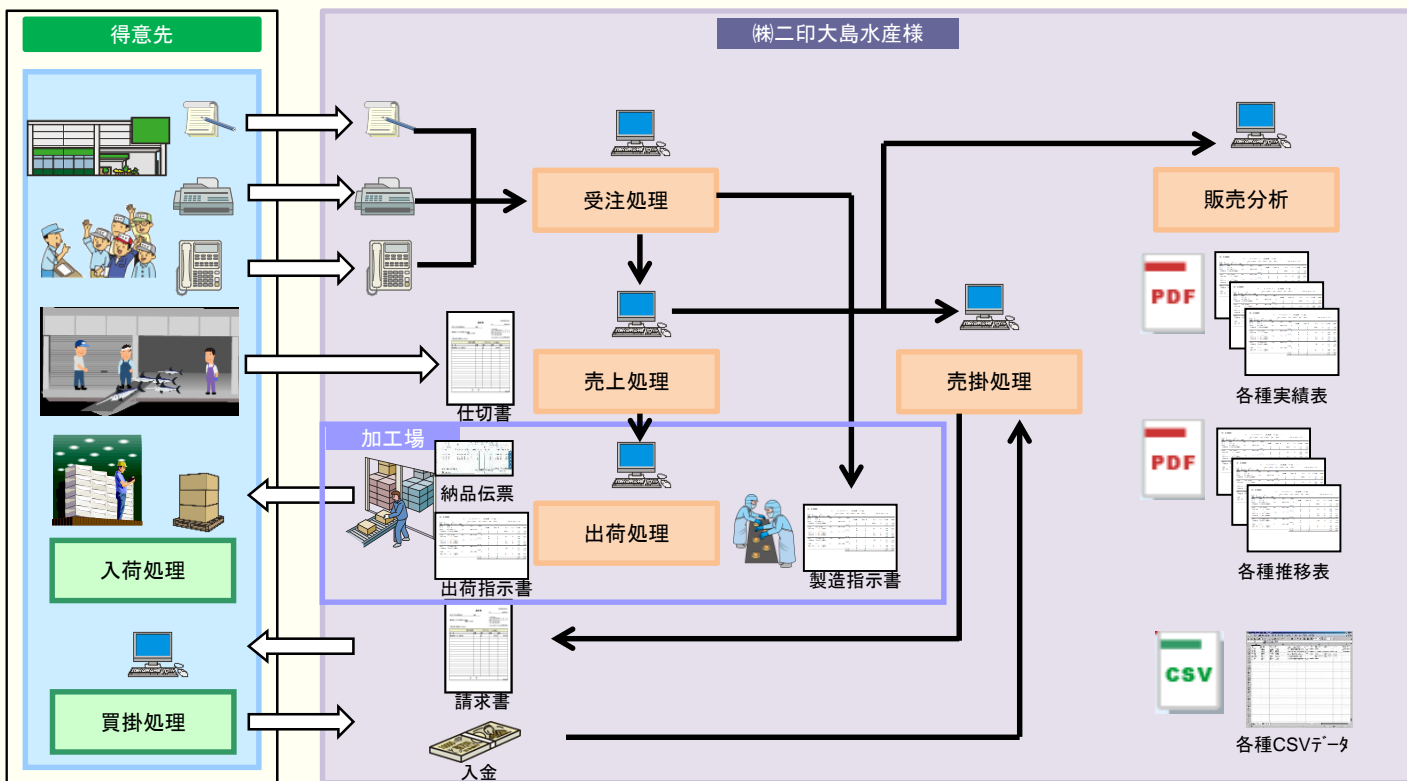
成功のポイント

柔軟なカスタマイズ対応とスムーズなシステム移行

基本的な販売管理システムの機能に水産加工業ならではの機能を盛り込み、シンプルな運用や操作性により従来システムとのギャップを埋めることに成功しました。また、オフコンのマスターデータもオンプレミスサーバーのデータベースに移行できたため、運用側では移行に伴う作業が一切かかりませんでした。

処理イメージ

加工場と事務所との効率的なコミュニケーションを実現



販売開発元

株式会社SJC

URL <http://sjc-sendai.co.jp>

〒984-0015 仙台市若林区卸町2-9-5(第二OCビル)

TEL022-284-0286 FAX022-284-0265

販売代理店